

熟年しあわせ計画及び介護保険事業計画 改定のための基礎調査報告書【概要版】

【1】 調査実施の概要

本調査は、令和9年度～令和11年度を計画期間とする「熟年しあわせ計画」及び「第10期介護保険事業計画」改定の基礎資料として用いるために実施した。

調査名	高齢者の健康と生きがいに関する調査	介護保険サービス利用に関する調査	介護保険制度に関する意識調査
調査方法	郵送配布－郵送回収・Web回答		
調査対象者	要介護状態となる前の65歳以上の区民 (令和7年10月1日現在)	65歳以上の要介護(要支援)認定を受け、施設サービス、認知症高齢者グループホーム、有料老人ホームを利用していない区民 (令和7年10月1日現在)	50歳以上65歳未満の区民 (令和7年10月1日現在)
抽出方法	介護保険被保険者台帳より無作為抽出		住民基本台帳より無作為抽出
調査期間	令和7年10月15日～11月10日		
対象者及び回収率	対象者数：9,000 有効回収数：5,844 有効回収率：64.9%	対象者数：1,400 有効回収数：772 有効回収率：55.1%	対象者数：800 有効回収数：355 有効回収率：44.4%

調査名	介護保険サービス事業者調査	介護支援専門員調査	在宅介護実態調査
調査方法	郵送配布－郵送回収・Web回答		認定調査員による聞き取り
調査対象者	区内で介護保険サービスを提供している事業所	居宅介護支援事業所等に属する介護支援専門員	在宅の要支援・要介護認定を受けている方のうち、更新申請・区分変更申請に伴う認定調査を受ける方
抽出元	事業者名簿		－
調査期間	令和7年10月15日～11月10日		令和7年9月8日～令和7年12月23日
対象者及び回収率	対象者数：586 有効回収数：346 有効回収率：59.0%	対象者数：552 有効回収数：365 有効回収率：66.1%	対象者数：－ 有効回収数：634 有効回収率：－

【2】 調査結果（概要版）をみるにあたって

（1）次期計画の改定に向けた国の方向性を見据えて

次期計画の改定に向けて、国では第10期介護保険事業(支援)計画に係る基本指針の基本的な考え方が示された。これによれば、地域の実情に応じて、2040年に向けて地域包括ケアシステムを深化させ、医療・介護の一層の連携を図り、介護人材の確保、介護現場の生産性の向上を図るための取組等を勘案した上で具体的な取組や目標を定めるように言われている。本区でも地域の状況を把握し、今後の方向性を検討するための材料とするため、基礎調査から関連する結果を掲載した。

主な事項	主な内容
1 介護サービス基盤の計画的な整備	○地域の実情に応じたサービス提供体制の構築 ○在宅サービスの充実
2 地域包括ケアシステムの深化	○多様な主体とのつながりづくり等の更なる支援や質の向上 ○切れ目のない支援が提供される地域づくり ○認知症基本法や認知症施策推進基本計画を踏まえて
3 介護人材確保・生産性向上、経営改善支援等	○介護人材の確保 ○テクノロジーの更なる活用

（2）第9計画に設定した指標の状況

本区では「江戸川区熟年しあわせ計画（老人福祉計画）及び第9期介護保険事業計画（以下、「9期計画」）」の計画全体の指標（ものさし）として『幸福度』の向上を掲げ、それにつながる5つの柱を定め、「歳を重ねても幸せに暮らせるまち」を目指している。経年比較より、指標の現状を掲載した。

5つの柱	基礎調査から確認する指標	目標
生きがいに満ちた地域づくり	1 孤独感の状況 2 地域づくりを進める活動への参加者の参加状況	→ 計画全体…幸福度の向上
生涯現役の健康づくり	3 健康維持の取り組み状況	
安心と信頼のサービスづくり	4 介護保険サービスの満足度	
みんなにやさしいまちづくり	5 災害時の避難の状況	
生活を支える体制づくり	6 認知症に関する相談先の状況 7 ケアマネジャーと主治医等の医療機関との連携状況	

(3) 掲載グラフの見方

① n (number of case の略) について

百分率 (%) を算出する基数となる実数は、n として表示している。

② 図表の単位について

本文中に掲載したグラフ及びクロス集計の単位は、特にことわりのないかぎり、「%」で表している。

③ 百分率について

百分率 (%) は、すべて小数点以下第 2 位を四捨五入した数値であるため、合計が 100% にならない場合がある。

また、その質問の回答者数を基数 (n) としていることから、複数回答の質問は全ての百分率 (%) を合計すると 100% を超えることがある。

④ 図表の「-」表記について

図表中では、“-” を用いていることがある。それは、選択肢の回答者がいなかったことを表している。

⑤ 単純集計及び分析について

各質問の「単純集計」を行い、その特徴等を記述している。

単純集計のグラフにおいては、傾向をよりわかりやすくするために、選択肢を百分率 (%) の大きなものから小さなものへと並びかえた「ランキング集計」を行っている場合がある。

⑥ クロス集計及び分析について

概要版の分析に用いているクロス集計グラフ及びクロス集計表に関しては、分析の柱である性別、年齢別、要介護度別等について、「無回答」の掲載を省略しているため、分析軸 (タテ軸) の回答者数の合計値と「全体」が一致していない場合がある。

【3】調査結果の概要

(1) 介護サービス基盤の計画的な整備

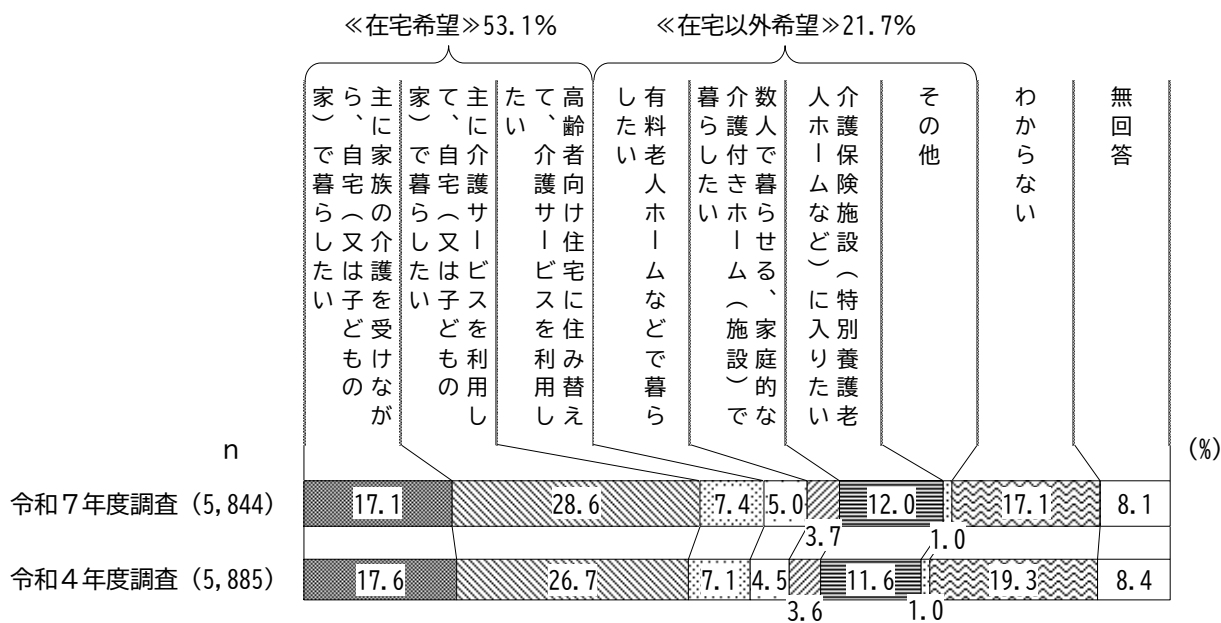
①地域の実情に応じたサービス提供体制の構築

《今後希望する暮らし方》

介護が必要になった場合に希望する暮らし方は、「主に介護サービスを利用して、自宅（又は子どもの家）で暮らしたい」が28.6%で最も高くなっている。次いで「主に家族の介護を受けながら、自宅（又は子どもの家）で暮らしたい」が17.1%、これらに「高齢者向け住宅に住み替えて、介護サービスを利用したい」（7.4%）を合わせた《在宅希望》は53.1%となる。一方、「有料老人ホームなどで暮らしたい」（5.0%）、「数人で暮らせる、家庭的な介護付きホーム（施設）で暮らしたい」（3.7%）、「介護保険施設（特別養護老人ホームなど）に入りたい」（12.0%）、「その他」（1.0%）を合わせた《在宅以外希望》は21.7%となっている。

令和4年度調査と比較すると、《在宅希望》・《在宅以外希望》ともに特に大きな違いはみられない。

(介護保険サービス利用に関する調査 問40)



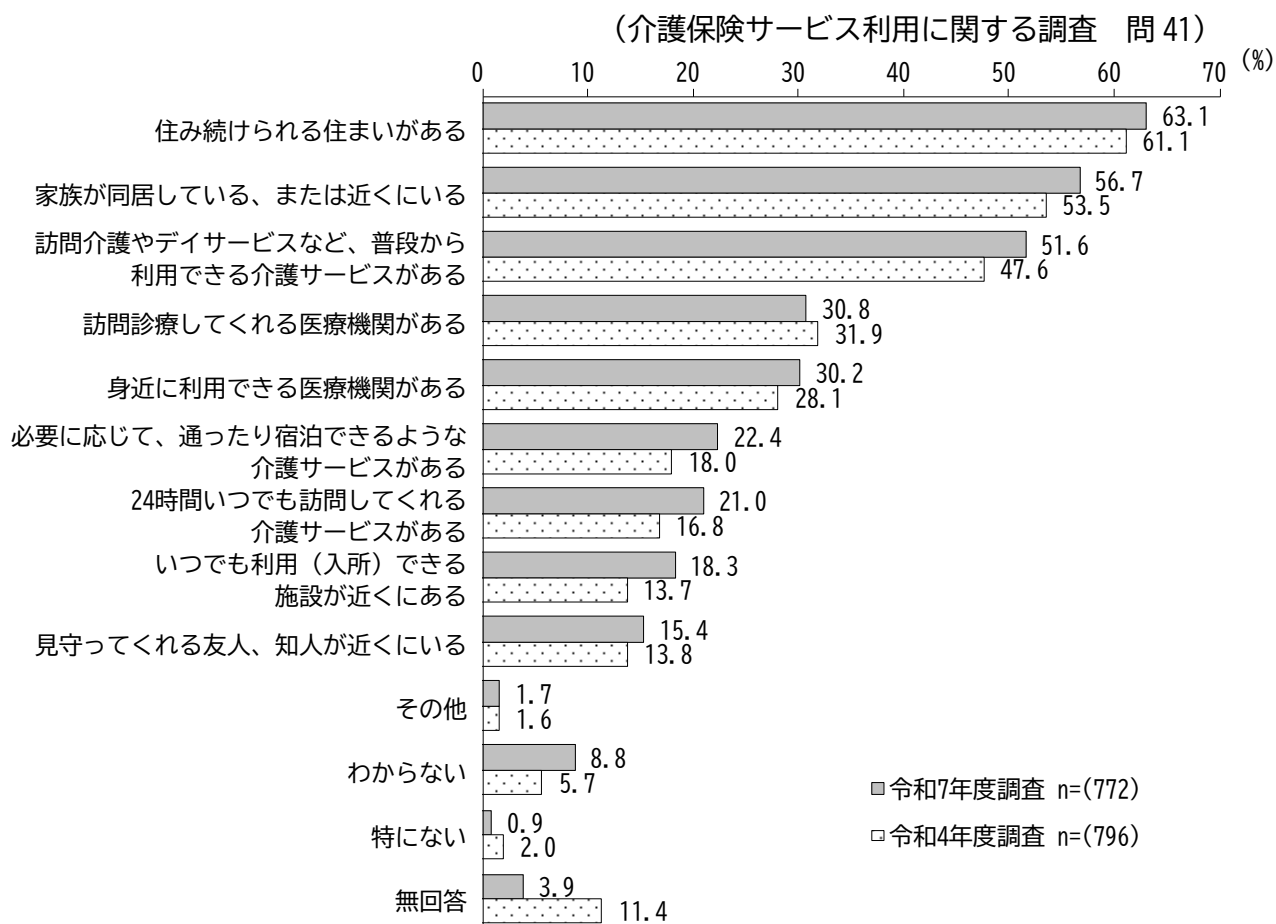
※《在宅希望》＝「主に家族の介護を受けながら、自宅（又は子どもの家）で暮らしたい」
 ＋「主に介護サービスを利用して、自宅（又は子どもの家）で暮らしたい」
 ＋「高齢者向け住宅に住み替えて、介護サービスを利用したい」

※《在宅以外希望》＝「有料老人ホームなどで暮らしたい」
 ＋「数人で暮らせる、家庭的な介護付きホーム（施設）で暮らしたい」
 ＋「介護保険施設（特別養護老人ホームなど）に入りたい」＋「その他」

②在宅サービスの充実

《在宅で暮らし続けるために必要なこと》

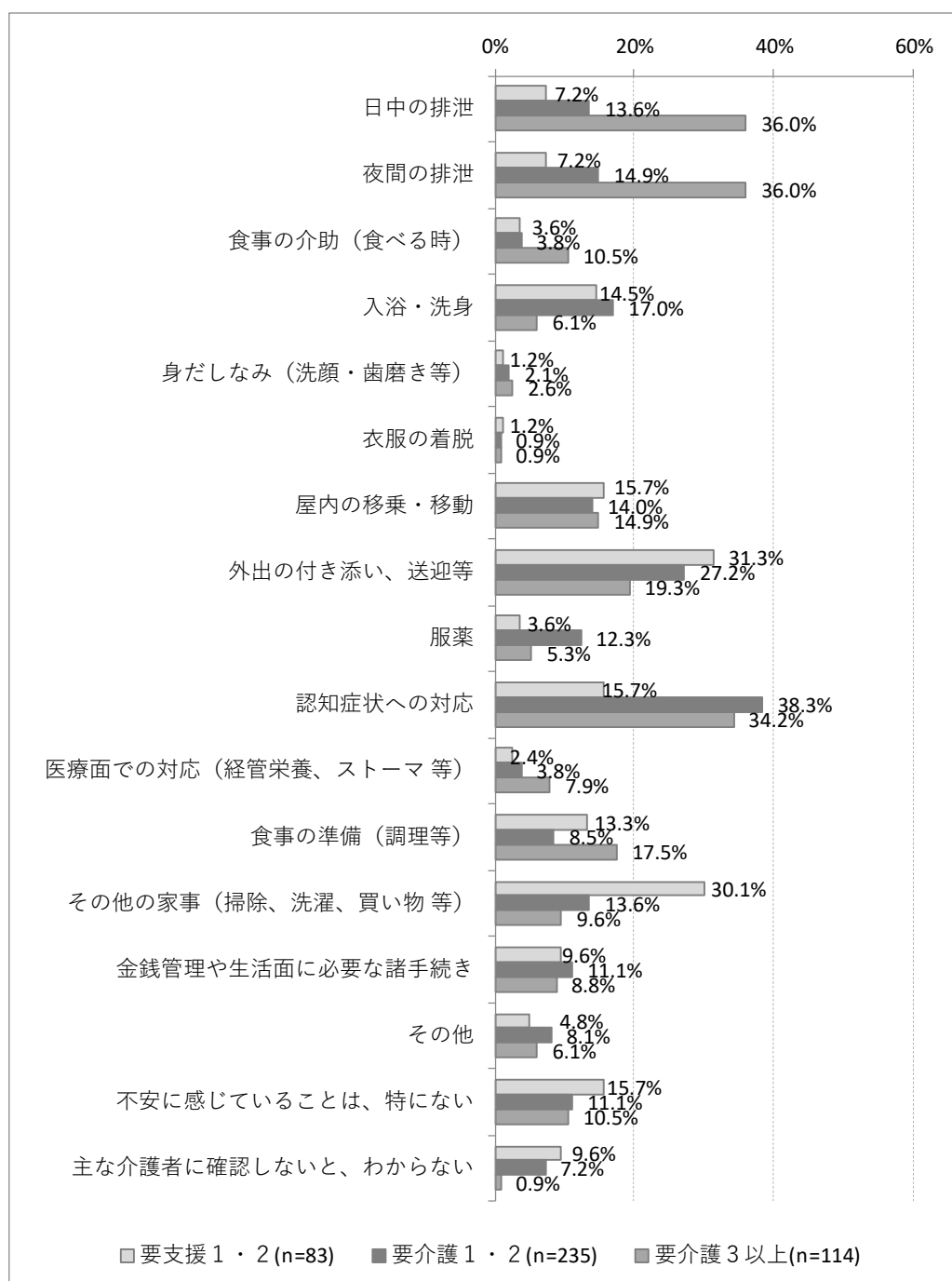
在宅で暮らし続けるために必要なことは、「住み続けられる住まいがある」が63.1%で最も高く、次いで「家族が同居している、または近くにいる」が56.7%、「訪問介護やデイサービスなど、普段から利用できる介護サービスがある」が51.6%などとなっている。



《主な介護者が不安に感じる介護》

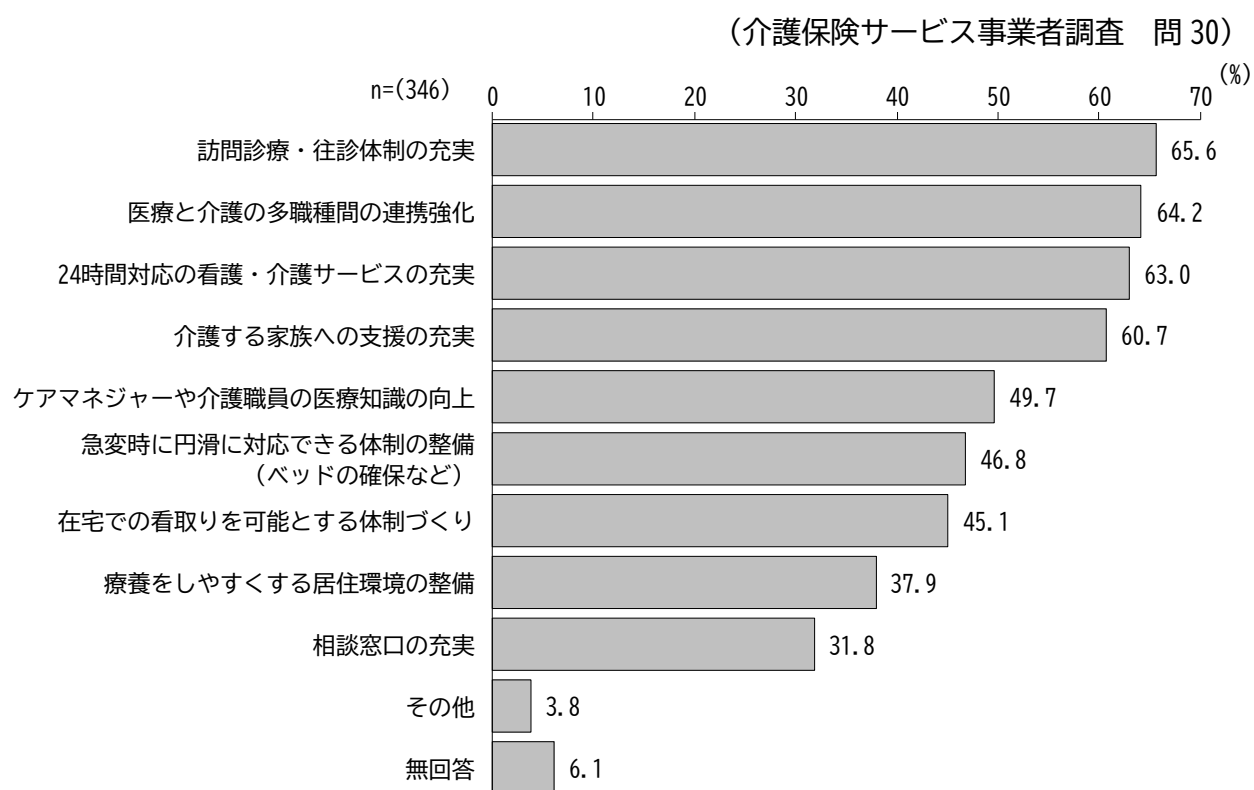
主な介護者が不安に感じる介護を要介護度別にみると、「要支援1・2」では、“外出の付き添い、送迎等”が31.3%と最も高く、次いで“その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）”が30.1%、“屋内の移乗・移動”と“認知症状への対応”がともに15.7%などとなっている。一方、“不安に感じていることは、特にない”が15.7%となっている。「要介護1・2」では、“認知症状への対応”が38.3%と最も高く、次いで“外出の付き添い、送迎等”が27.2%、“入浴・洗身”が17.0%などとなっている。「要介護3以上」では、“夜間の排泄”と“日中の排泄”がともに36.0%と最も高く、次いで“認知症状への対応”が34.2%、“外出の付き添い、送迎等”が19.3%などとなっている。

(在宅介護実態調査 主な介護者の調査項目 問5)



《医療ニーズの高い利用者の在宅療養を支援するために必要なこと》

医療ニーズの高い利用者の在宅療養を支援するために必要なことは、「訪問診療・往診体制の充実」が65.6%で最も高く、次いで、「医療と介護の多職種間の連携強化」が64.2%、「24時間対応の看護・介護サービスの充実」が63.0%、「介護する家族への支援の充実」が60.7%と上位4項目が6割台となっている。



(2) 地域包括ケアシステムの深化

①多様な主体とのつながりづくり等の更なる支援や質の向上

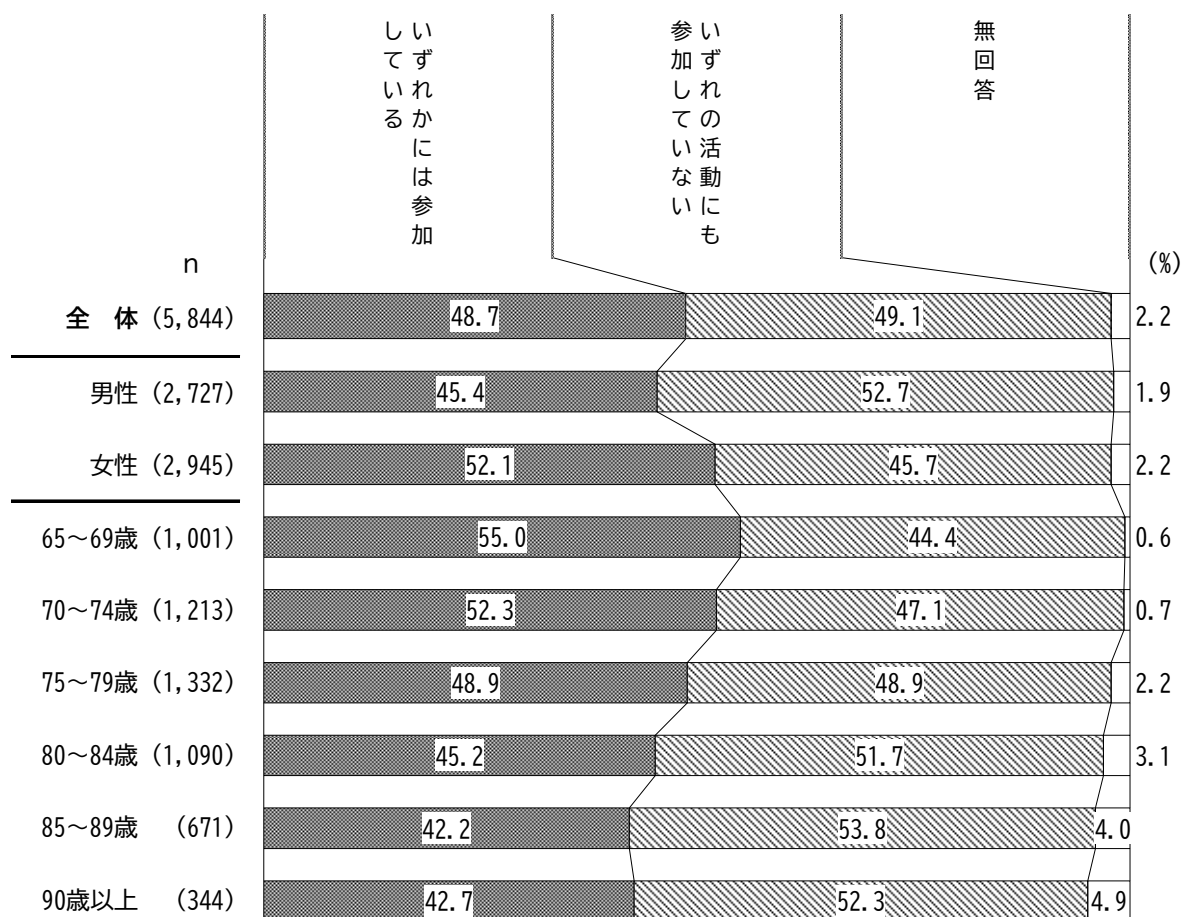
《会やグループ等への参加状況》

会やグループ等への参加状況は、「いずれかには参加している」が48.7%、「いずれの活動にも参加していない」が49.1%となっている。

性別でみると、「いずれかには参加している」は、女性の方が男性よりも6.7ポイント高くなっている。

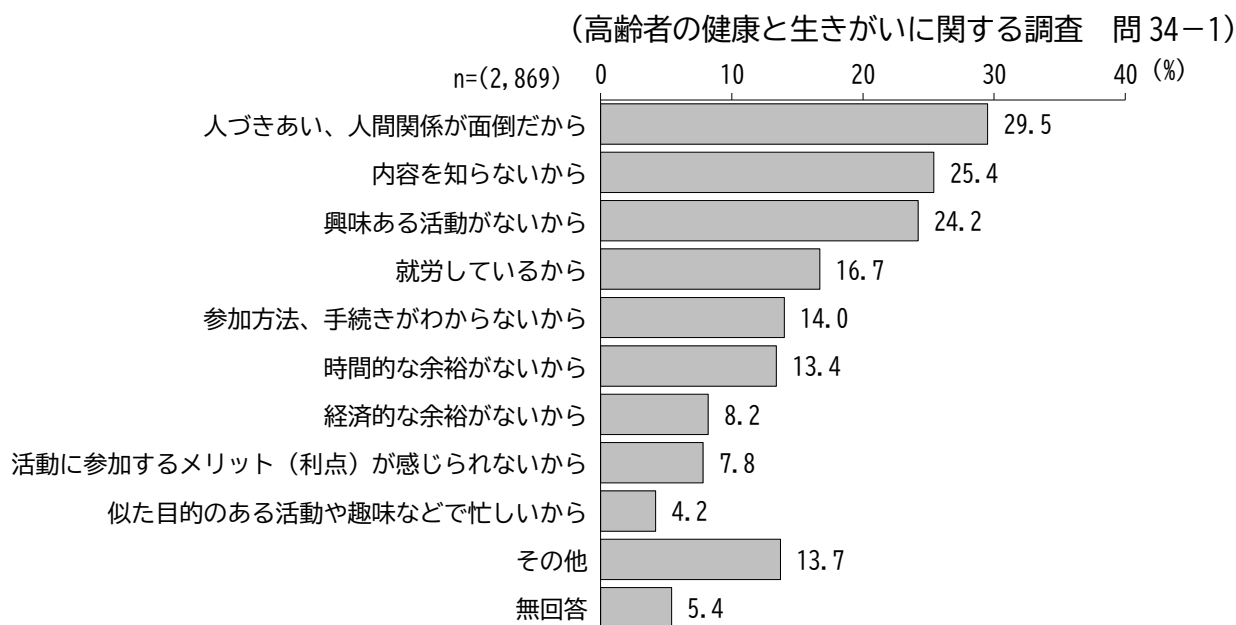
年齢別でみると、「いずれかには参加している」はおおよそ年齢が上がるほど低くなっており、85～89歳で42.2%、90歳以上で42.7%となっている。

(高齢者の健康と生きがいに関する調査 問 34)



《活動に参加したいと思わない理由》

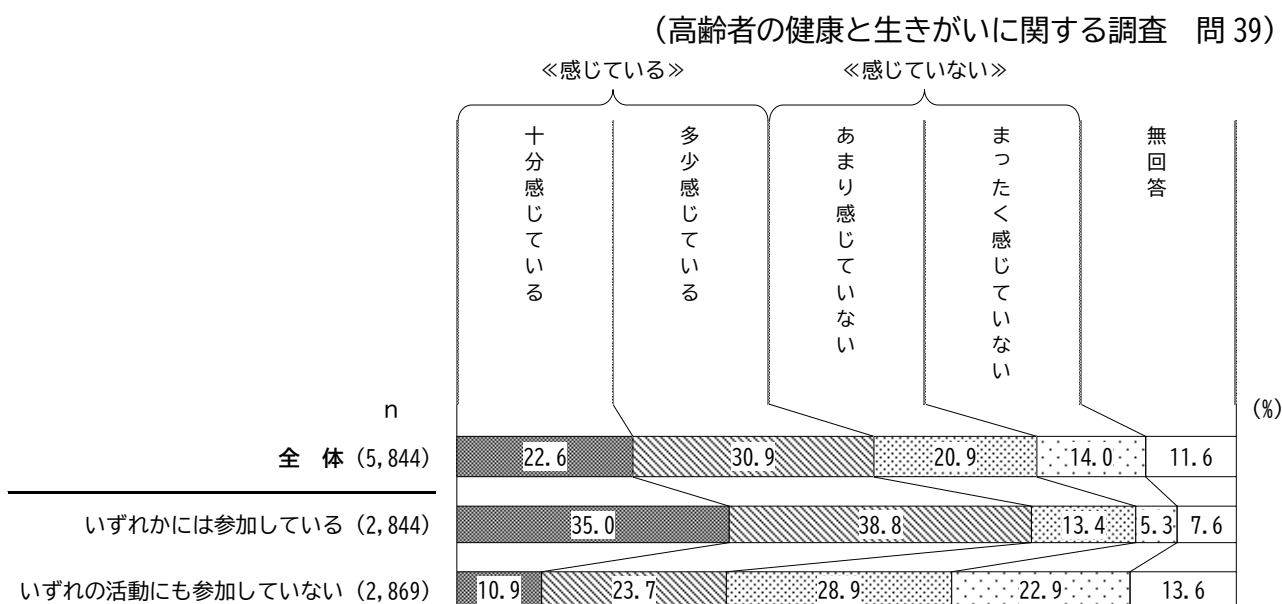
活動に参加したいと思わない理由は、「人づきあい、人間関係が面倒だから」が29.5%で最も高く、次いで「内容を知らないから」(25.4%)、「興味ある活動がないから」(24.2%)、「就労しているから」(16.7%)が続いている。



《生きがいの程度》

生きがいの程度は、「多少感じている」が30.9%と最も高く、「十分感じている」(22.6%)と合わせた《感じている》は53.5%となっている。一方、「あまり感じていない」(20.9%)と「まったく感じていない」(14.0%)を合わせた《感じていない》は34.9%となっている。

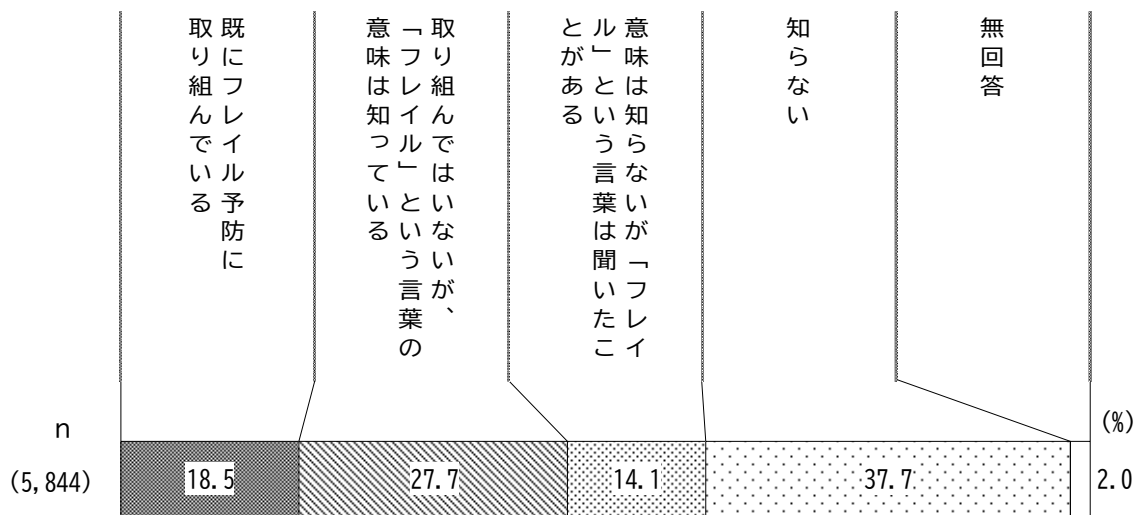
活動への参加の有無でみると、《感じている》はいずれかに参加している方が73.8%といずれの活動にも参加していない方(34.6%)を39.2ポイント上回っている。



《フレイルに関する認識》

「フレイル」に関する認識は、「知らない」が37.7%で最も高く、次いで「取り組んではいないが、「フレイル」という言葉の意味は知っている」が27.7%、「既にフレイル予防に取り組んでいる」が18.5%、「意味は知らないが「フレイル」という言葉は聞いたことがある」が14.1%となっている。

(高齢者の健康と生きがいに関する調査 問 18)

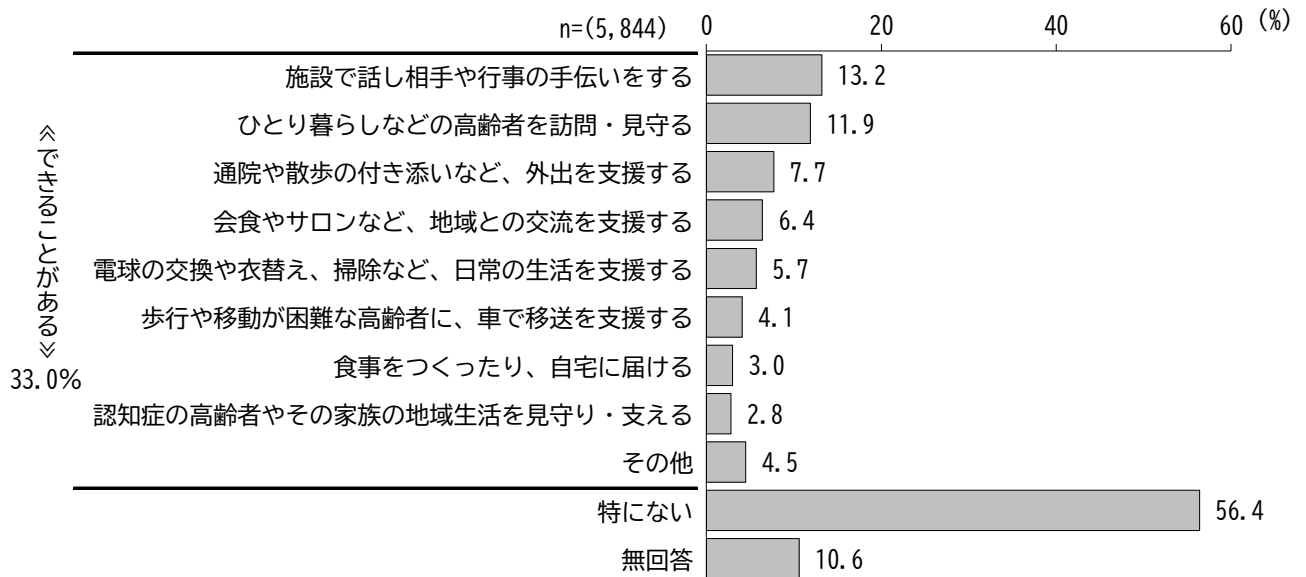


《地域の支え手としてできること》

地域の支え手としてできることは、《できることがある》が33.0%、「特にない」が56.4%となっている。

できることとしては、「施設で話し相手や行事の手伝いをする」が13.2%、「ひとり暮らしなどの高齢者を訪問・見守る」が11.9%などとなっている。

(高齢者の健康と生きがいに関する調査 問 42)



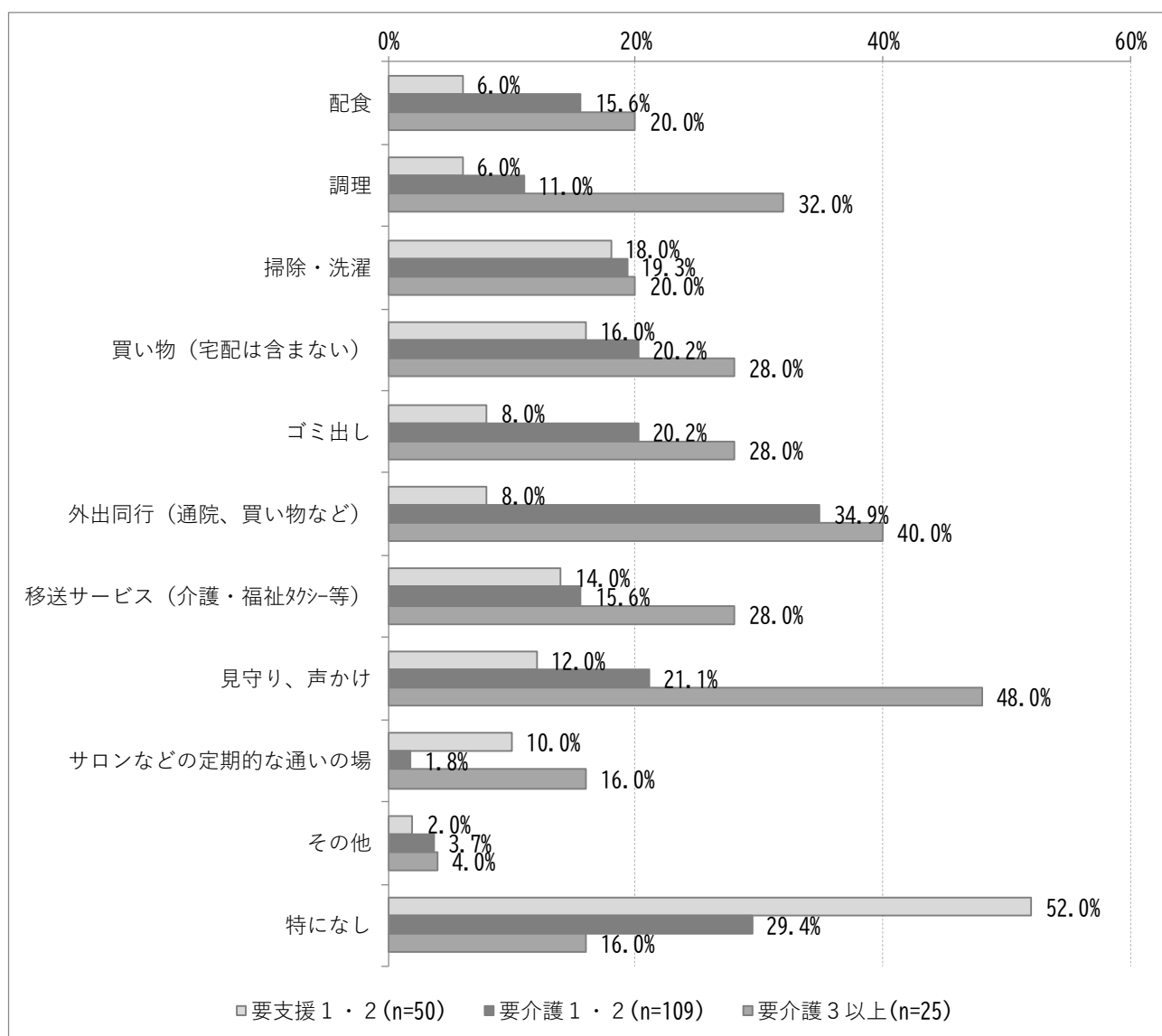
※《できることがある》=100%－「特にない」－「無回答」

②切れ目のない支援が提供される地域づくり

《在宅生活の継続のために充実が必要な支援・サービス（単身世帯）》

単身世帯における在宅生活の継続のために充実が必要と感じる支援・サービスを要介護度別にみると、“要支援1・2”では、「特になし」が52.0%で最も高く、次いで「掃除・洗濯」が18.0%、「買い物（宅配は含まない）」が16.0%となっている。“要介護1・2”では「外出同行（通院・買い物など）」が34.9%で最も高く、次いで「特になし」が29.4%、「見守り・声かけ」が21.1%となっている。“要介護3以上”では「見守り・声かけ」が48.0%で最も高く、次いで「外出同行（通院・買い物など）」が40.0%、「調理」が32.0%となっている。

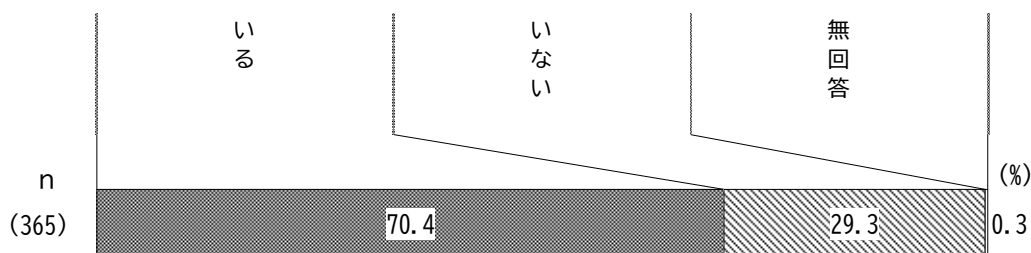
（在宅介護実態調査 基本調査項目 問9）



《支援や対応に困難を感じているケースの状況》

支援や対応に困難を感じている利用者が、「いる」は70.4%となっている。

(介護支援専門員調査 問8)

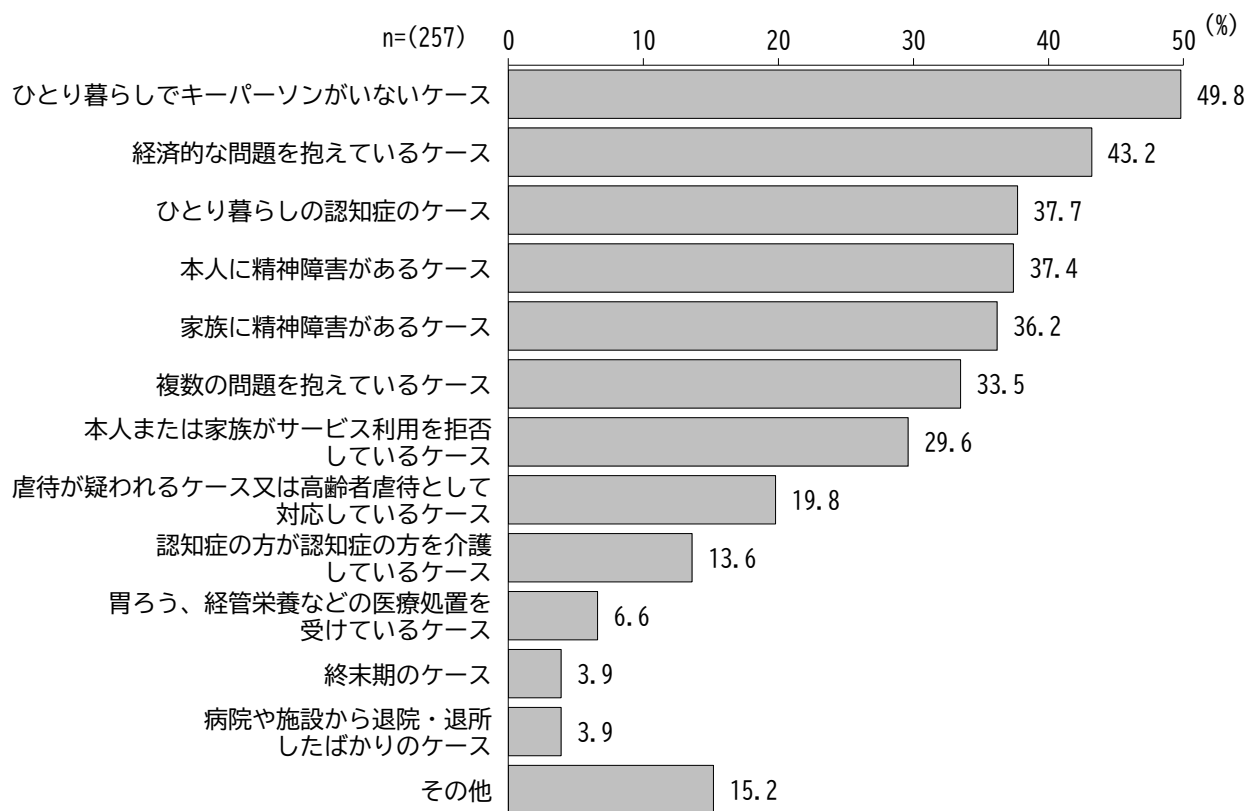


《支援や対応に困難を感じているケースの状況》

支援や対応に困難を感じている利用者が「いる」と回答した人に、困難を感じているケースをたずねた。

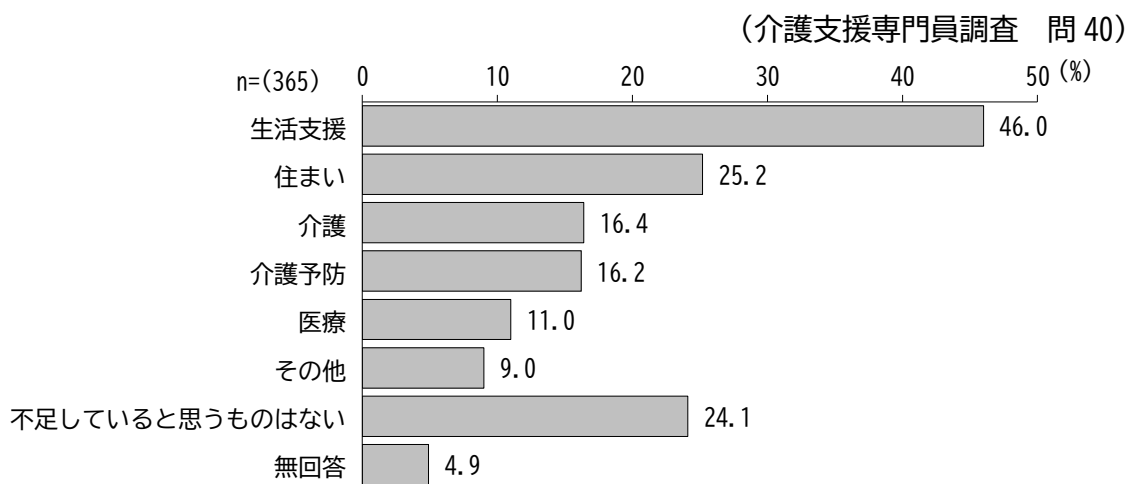
その結果、「ひとり暮らしでキーパーソンがいないケース」が49.8%で最も高く、次いで「経済的な問題を抱えているケース」が43.2%、「ひとり暮らしの認知症のケース」が37.7%、「本人に精神障害があるケース」が37.4%などとなっている。

(介護支援専門員調査 問8—1)



《区の地域包括ケアシステムで不足していると思うもの》

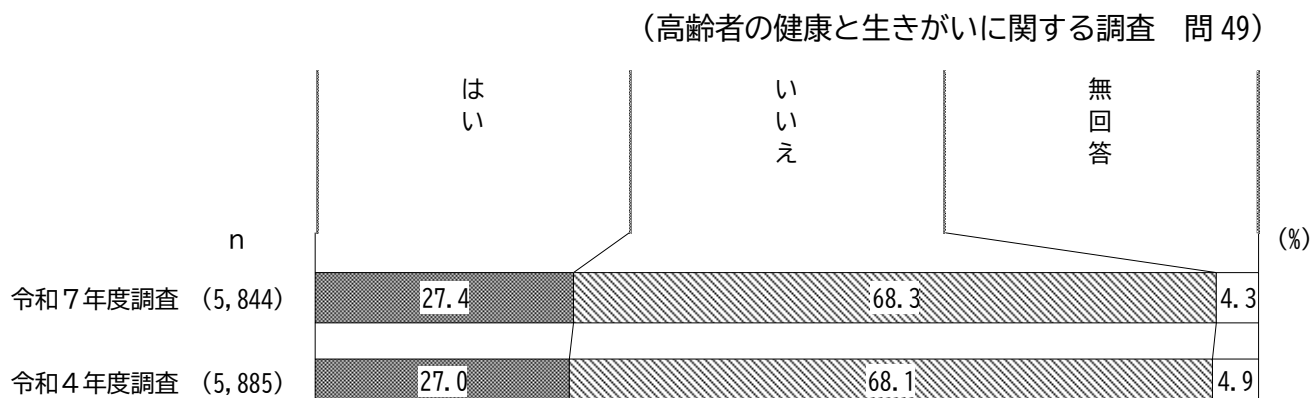
区の地域包括ケアシステムで不足していると思うものは、「生活支援」が46.0%で最も高く、次いで「住まい」が25.2%、「介護」が16.4%などとなっている。一方、「不足していると思うものはない」は24.1%となっている。



③認知症基本法や認知症施策推進基本計画を踏まえて

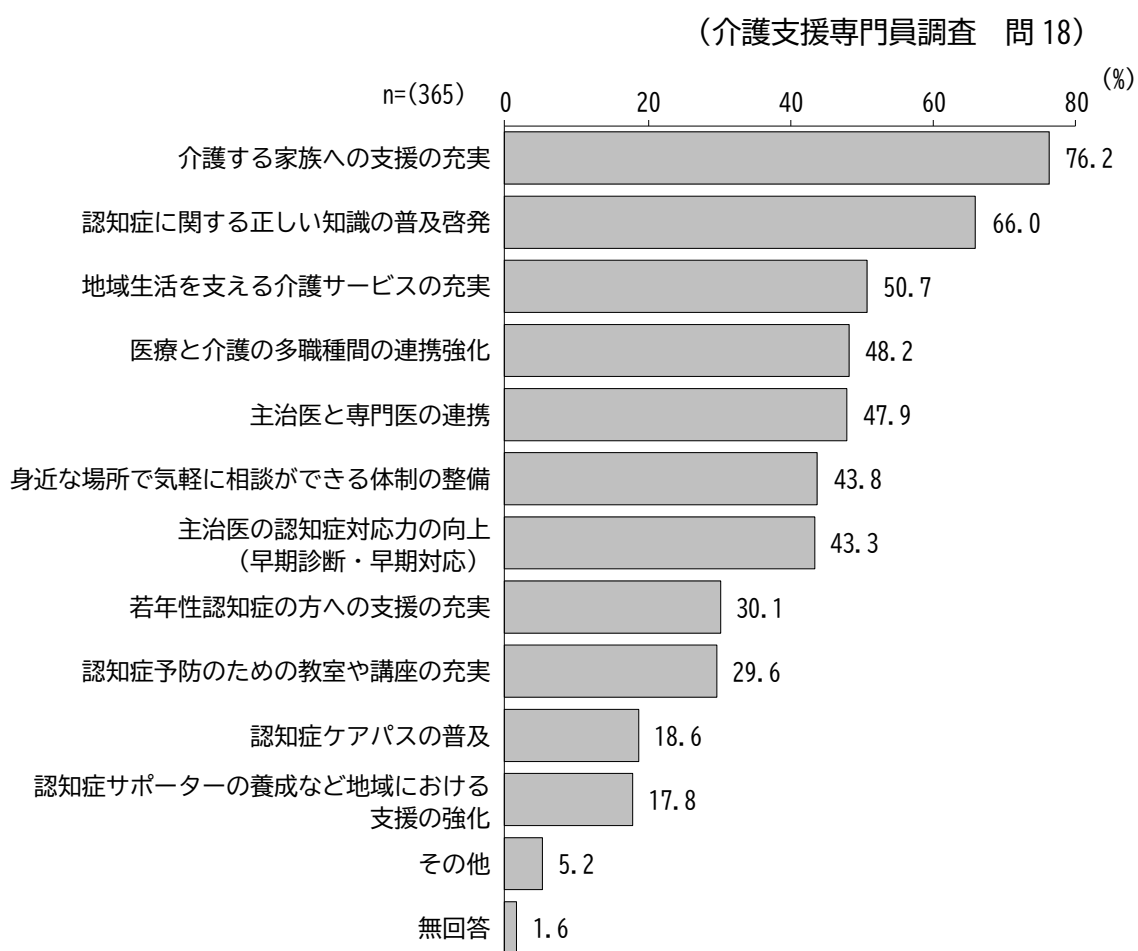
《認知症に関する相談窓口の認知度》

認知症に関する相談窓口を知っているかたずねたところ、「はい」が27.4%となっている。



《認知症の方の地域生活を支援するために必要なこと》

認知症の方の地域生活を支援するために必要なことは、「介護する家族への支援の充実」が76.2%で最も高く、次いで「認知症に関する正しい知識の普及啓発」が66.0%、「地域生活を支える介護サービスの充実」が50.7%、「医療と介護の多職種間の連携強化」が48.2%などとなっている。



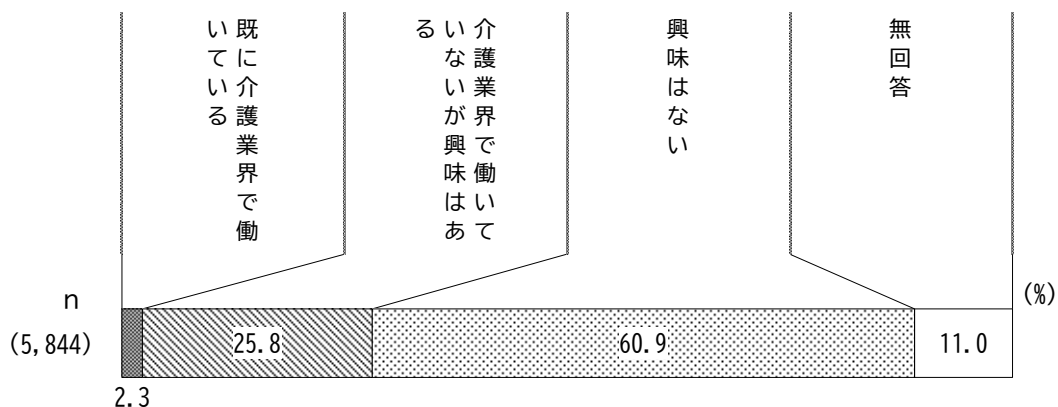
(3) 介護人材確保・生産性向上、経営改善支援等

①介護人材の確保

《介護業界での就労への興味》

介護業界での就労への興味は、「興味はない」が60.9%で最も高く、次いで「介護業界で働いていないが興味はある」(25.8%)、「既に介護業界で働いている」(2.3%)となっている。

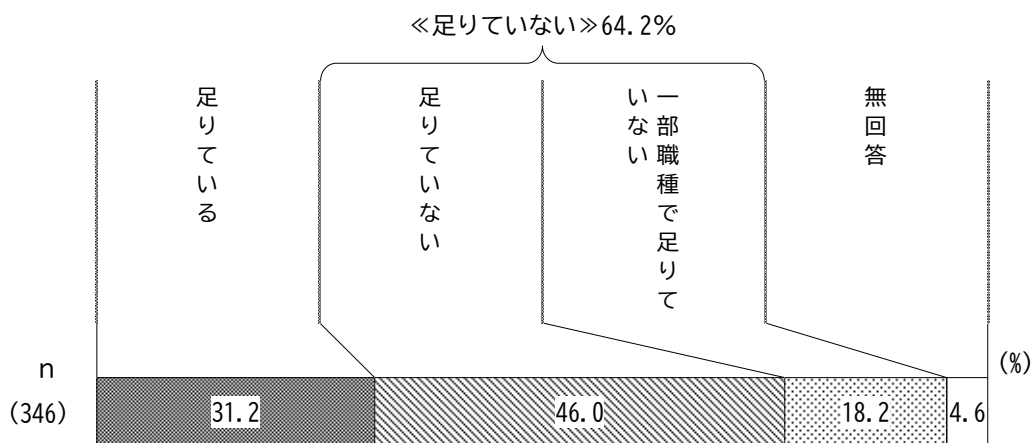
(高齢者の健康と生きがいに関する調査 問 38)



《介護職員の充足状況》

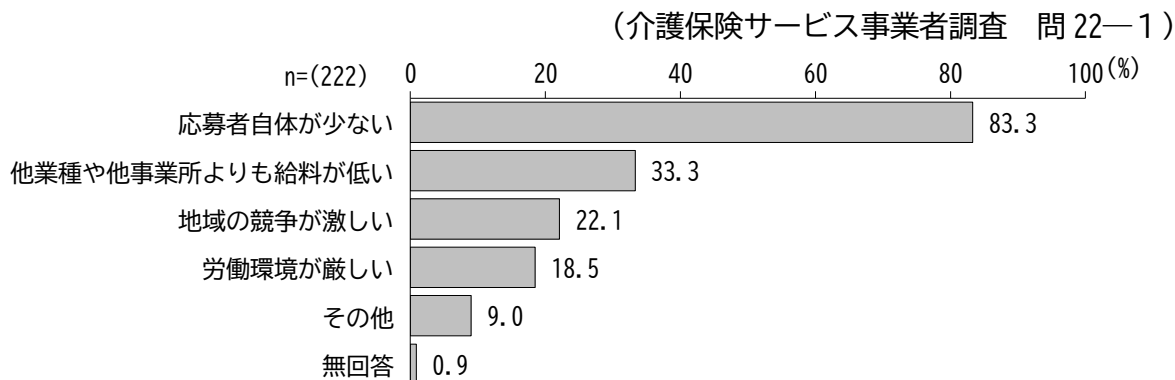
介護職員の充足状況は、「足りていない」が46.0%で最も高く、「一部職種で足りていない」(18.2%)と合わせた《足りていない》が64.2%となっている。また、「足りている」は31.2%となっている。

(介護保険サービス事業者調査 問 22)



《介護職員が足りてない理由》

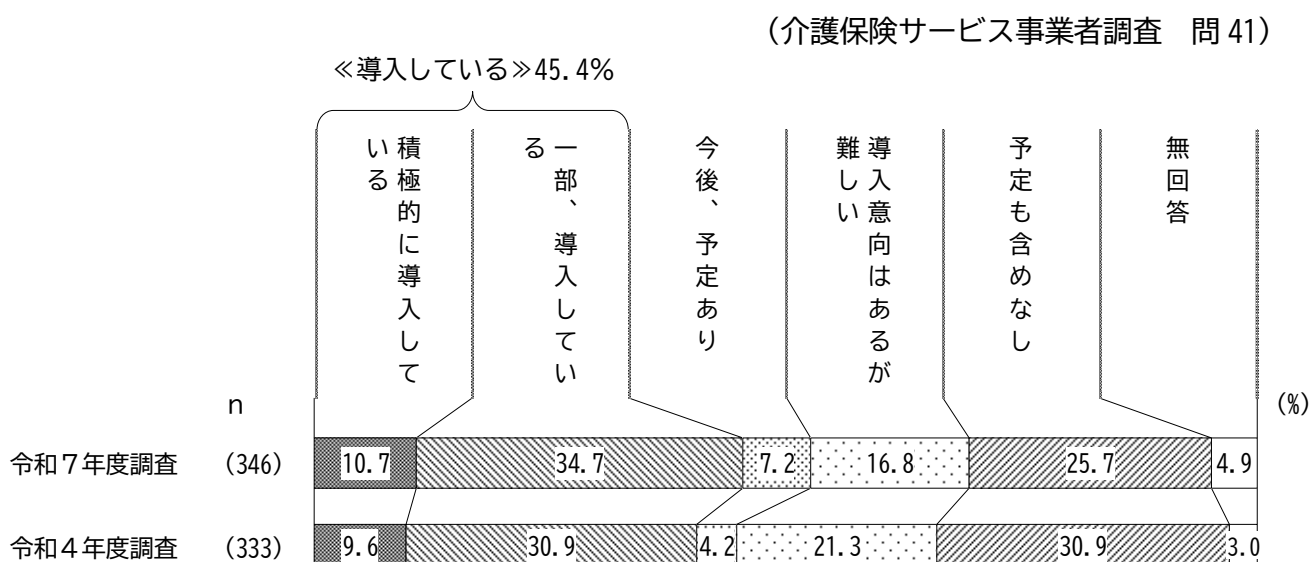
《足りていない》と回答した事業所に、足りていない理由をたずねたところ、「応募者自体が少ない」が83.3%で最も高く、次いで「他業種や他事業所よりも給料が低い」(33.3%)、「地域の競争が激しい」(22.1%)、「労働環境が厳しい」(18.5%)となっている。



②テクノロジーの更なる活用

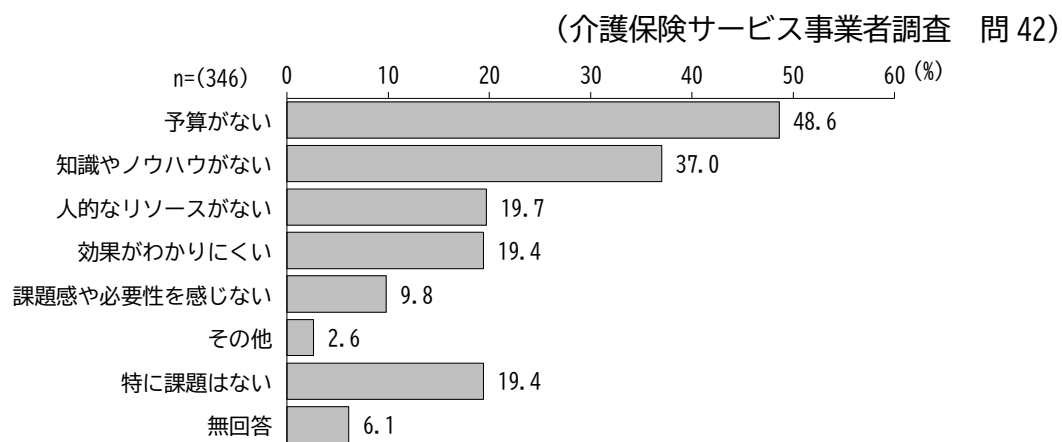
《ICTや介護ロボットの導入状況・今後の意向》

ICTや介護ロボットの導入状況・今後の意向については、「一部、導入している」が34.7%で最も高くなっており、「積極的に導入している」(10.7%)と合わせた《導入している》は45.4%となっている。また、「予定も含めなし」は25.7%、「導入意向はあるが難しい」は16.8%となっている。



《ICTや介護ロボットの導入にあたっての課題》

ICTや介護ロボットの導入にあたっての課題は、「予算がない」が48.6%で最も高く、次いで「知識やノウハウがない」が37.0%、「人的なリソースがない」が19.7%、「効果がわかりにくい」が19.4%などとなっている。



【4】第9計画に設定した指標の状況

①孤独感の状況

(高齢者の健康と生きがいに関する調査 問32)

UC L A孤独感尺度に基づく孤独感スコアを算出した結果、「ほとんどない(4~6点)」が44.3%で最も高く、次いで「時々ある(7~9点)」が30.0%である。

令和4年度調査との比較では、「ほとんどない(4~6点)」が3.4ポイント増加している。

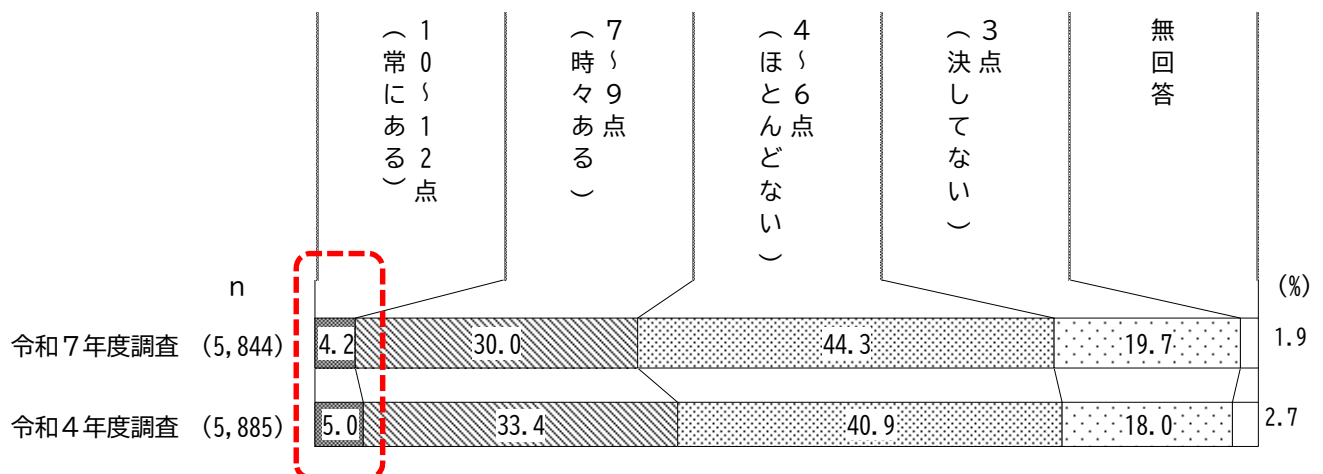
(介護保険サービス利用に関する調査 問20)

UC L A孤独感尺度に基づく孤独感スコアは、「時々ある(7~9点)」が45.1%で最も高く、次いで「ほとんどない(4~6点)」が34.6%、「常にある(10~12点)」が10.9%となっている。

令和4年度調査と比較すると、「ほとんどない(4~6点)」は4.7ポイント増加している。

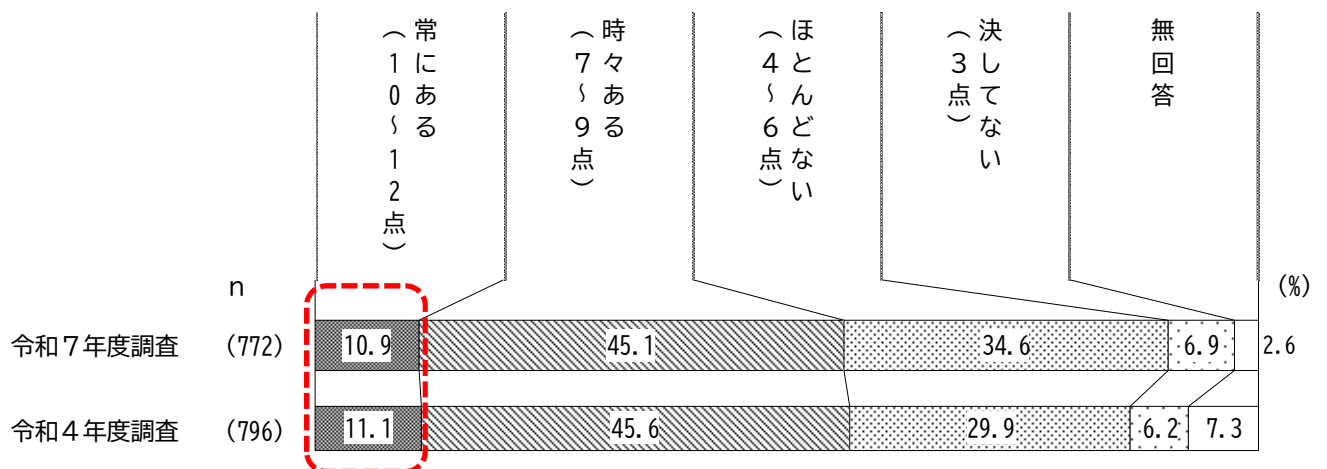
(高齢者の健康と生きがいに関する調査 問32)

【65歳以上】



(介護保険サービス利用に関する調査 問20)

【介護サービス利用者】



参考《9期計画》〔 5つの柱の成果指標 〕

指標名	現状（2023年）		目標（2026年）
	数値	出典	
孤独感が「常にある」の割合	高齢者： 5.0% 介護サービス利用者： 11.1%	①	減少↓

① 「江戸川区熟年しあわせ計画及び介護保険事業計画改定のための基礎調査報告書」（令和5年4月）

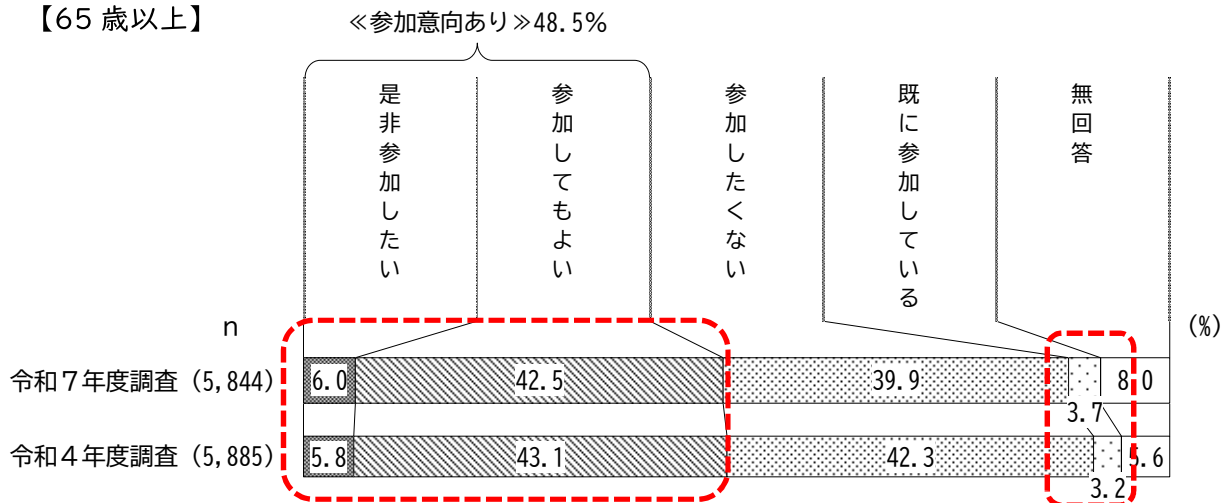
②地域づくりを進める活動への参加者の参加状況

（高齢者の健康と生きがいに関する調査 問40）

地域づくりを進める活動への参加者としての参加意向は、「参加してもよい」が42.5%と最も高く、これに「是非参加したい」（6.0%）を合わせた《参加意向あり》は48.5%である。これに「既に参加している」（3.7%）を加えた割合（意向あり+既に参加）は52.2%であった。令和4年度調査と比較すると、大きな違いはみられない。

（高齢者の健康と生きがいに関する調査 問40）

【65歳以上】



参考《9期計画》〔 5つの柱の成果指標 〕

指標名	現状（2023年）		目標（2026年）
	数値	出典	
地域づくりを進める活動への参加者としての「意向あり」と「既に参加している」割合	高齢者： 52.1%	①	増加↑

① 「江戸川区熟年しあわせ計画及び介護保険事業計画改定のための基礎調査報告書」（令和5年4月）

③健康維持の取り組み状況

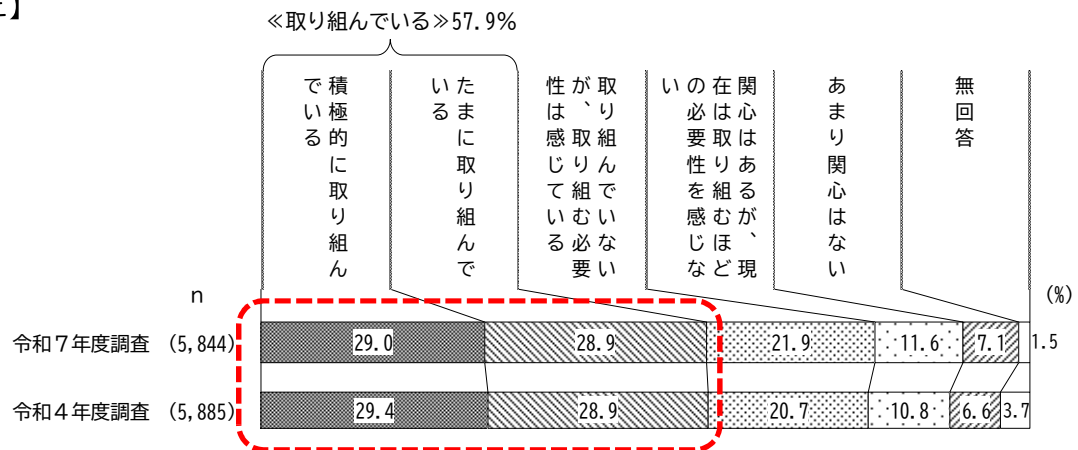
(高齢者の健康と生きがいに関する調査 問19)

健康維持のための取り組みは、「積極的に取り組んでいる」が29.0%と最も高く、「たまに取り組んでいる」が28.9%である。これらを合わせた「取り組んでいる」は57.9%となっている。令和4年度と比較すると、大きな変化は見られない。

一方、「取り組んでいないが、取り組む必要性を感じている」が21.9%、「関心はあるが、現在は取り組むほどの必要性を感じない」が11.6%、「あまり関心はない」が7.1%となっている。

(高齢者の健康と生きがいに関する調査 問19)

【65歳以上】



参考《9期計画》〔 5つの柱の成果指標 〕

指標名	現状 (2023年)		目標 (2026年)
	数値	出典	
健康維持に「取り組んでいる」割合	高齢者： 58.3%	①	増加↑

① 「江戸川区熟年しあわせ計画及び介護保険事業計画改定のための基礎調査報告書」(令和5年4月)

④介護保険サービスの満足度

(介護保険サービス利用に関する調査 問27-1)

介護保険サービスを「利用している」と回答した人に、その満足度をたずねた。

その結果、「ほぼ希望通りに利用できている」が84.1%となっている。一方、「希望通りに利用できていないサービスがある」(12.4%)と「まったく希望通りに利用できていない」(0.9%)を合わせた「希望通りに利用できていない」は13.3%となっている。

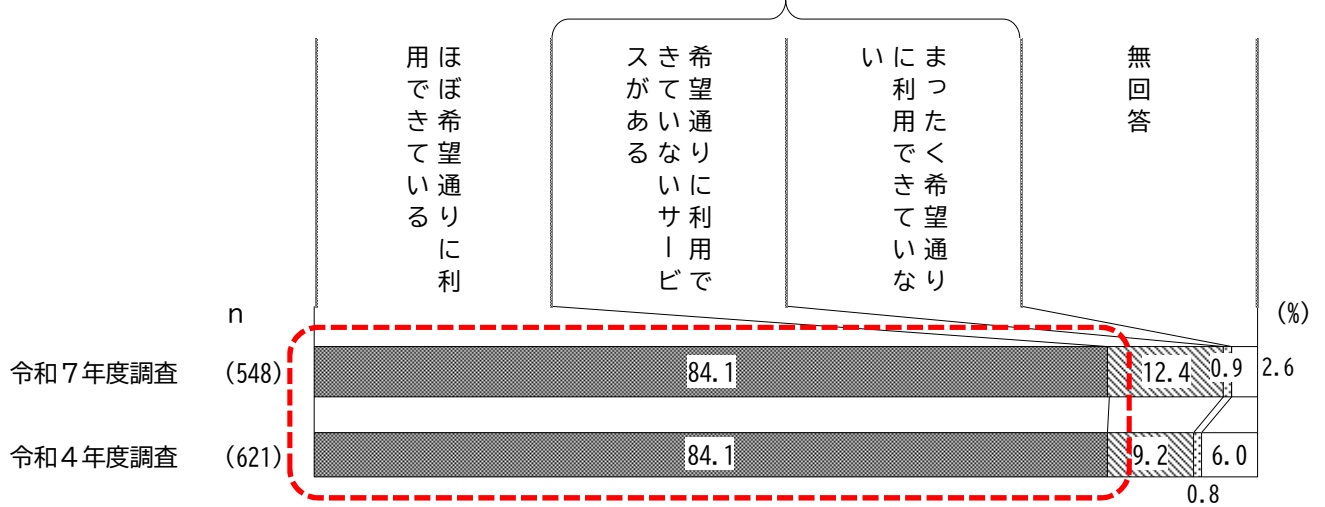
令和4年度調査と比較すると、「ほぼ希望通りに利用できている」は前回から大きな変化はないが、「希望どおりに利用できていない」は3.3ポイント増加している。

要介護度別で見ると、「ほぼ希望通りに利用できている」は要介護2で87.5%であり、要支援1から要介護4までで8割台となっている。一方、「希望通りに利用できていない」は要介護5で21.4%と最も高くなっている。

(介護保険サービス利用に関する調査 問 27-1)

【介護サービス利用者】

《希望どおりに利用できていない》13.3%



参考 《9期計画》 [5つの柱の成果指標]

指標名	現状 (2023年)		目標 (2026年)
	数値	出典	
介護保険サービス利用の満足度で「ほぼ希望通りに利用できている」割合	介護サービス利用者：84.1%	①	増加↑

① 「江戸川区熟年しあわせ計画及び介護保険事業計画改定のための基礎調査報告書」（令和5年4月）

⑤災害時の避難の状況

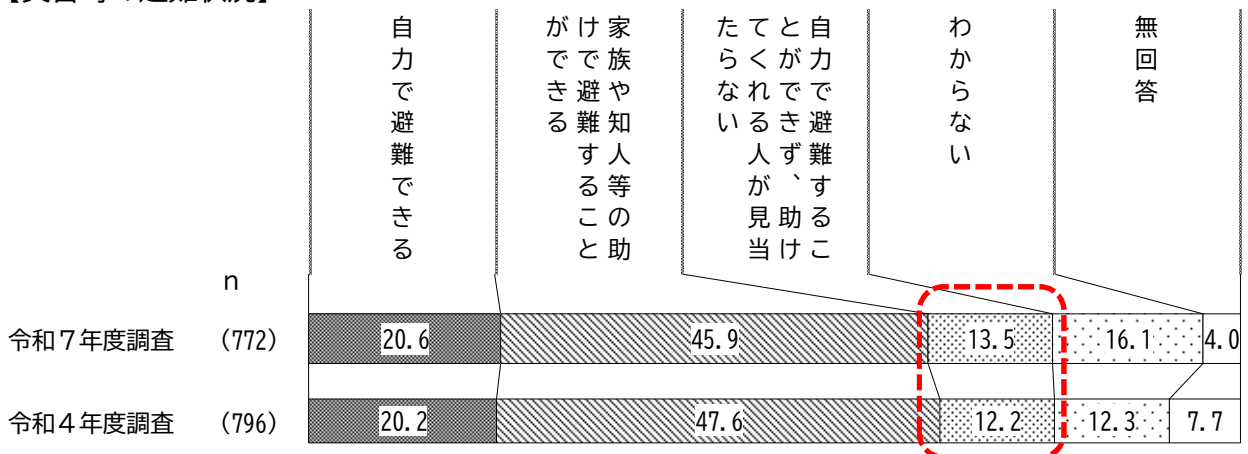
(介護保険サービス利用に関する調査 問33)

災害時の避難状況は、「家族や知人等の助けで避難することができる」が45.9%で最も高く、「自力で避難できる」が20.6%となっている。一方、「自力で避難することができず、助けてくれる人を見当たらない」が13.5%、「わからない」が16.1%となっている。

令和4年度調査と比較すると、「わからない」が3.8ポイント増加している。

(介護保険サービス利用に関する調査 問 33)

【災害時の避難状況】



参考《9期計画》〔 5つの柱の成果指標 〕

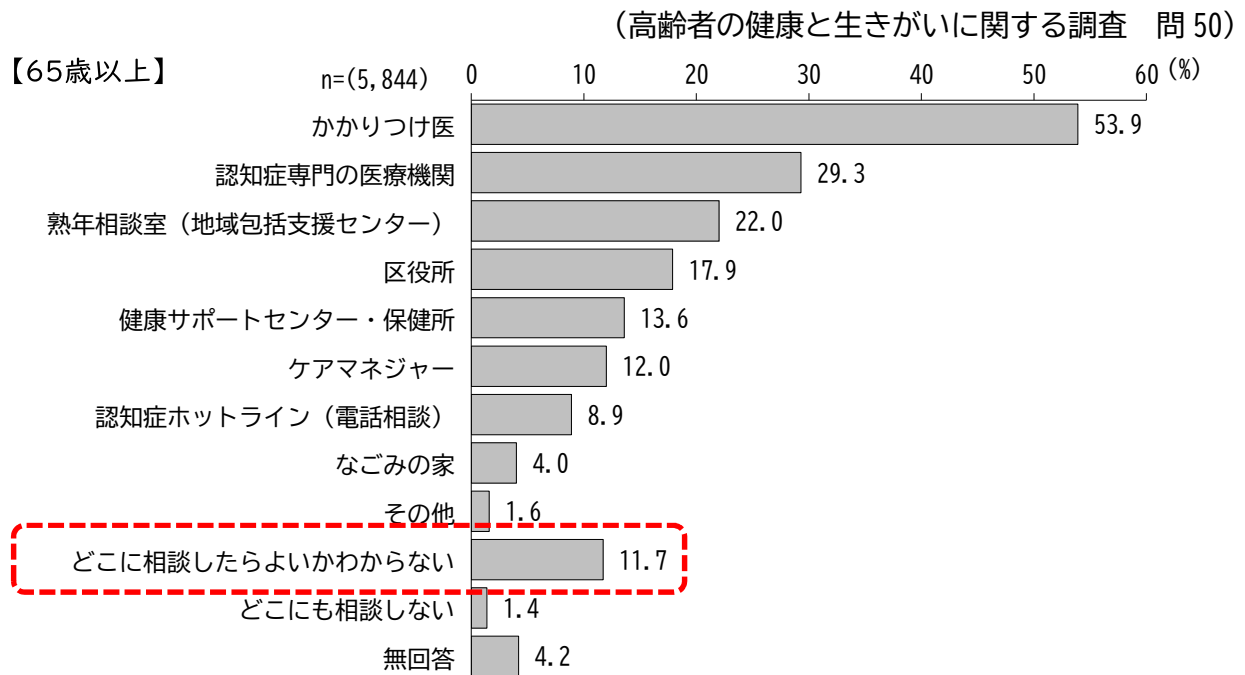
指標名	現状（2023年）		目標（2026年）
	数値	出典	
災害時に「自力で避難することができず、助けてくれる人を見当たらない」割合	介護サービス利用者 12.2%	①	減少↓

① 「江戸川区熟年しあわせ計画及び介護保険事業計画改定のための基礎調査報告書」（令和5年4月）

⑥認知症に関する相談先の状況

（高齢者の健康と生きがいに関する調査 問50）

認知症に関する相談先は、「かかりつけ医」が53.9%で最も高く、次いで「認知症専門の医療機関」が29.3%、「熟年相談室（地域包括支援センター）」が22.0%、「区役所」が17.9%などとなっている。一方、「どこに相談したらよいかわからない」は11.7%であった。



参考《9期計画》〔 5つの柱の成果指標 〕

指標名	現状（2023年）		目標（2026年）
	数値	出典	
認知症に関する相談先「どこに相談したらよいか分からない」割合	高齢者： 11.9%	①	減少↓

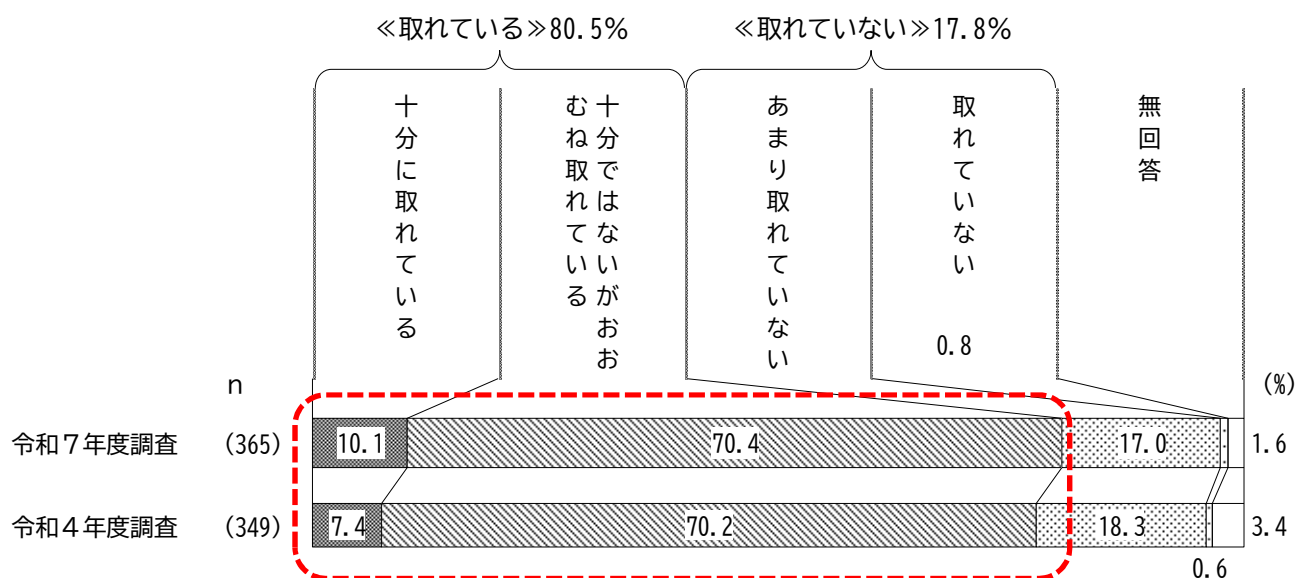
① 「江戸川区熟年しあわせ計画及び介護保険事業計画改定のための基礎調査報告書」（令和5年4月）

⑦ケアマネジャーと主治医等の医療機関との連携状況

(介護支援専門員調査 問25-1)

主治医等の医療機関との連携状況は、「十分ではないがおおむね取れている」が70.4%と最も高く、これに「十分に取れている」(10.1%)を合わせた「取れている」は80.5%となっている。一方、「あまり取れていない」(17.0%)と「取れていない」(0.8%)を合わせた「取れていない」は17.8%となっている。

(介護支援専門員調査 問25)



参考《9期計画》〔 5つの柱の成果指標 〕

指標名	現状 (2023年)		目標 (2026年)
	数値	出典	
ケアマネジャーと主治医等の医療機関との連携が「取れている」割合	介護支援専門員: 77.6%	①	増加↑

① 「江戸川区熟年しあわせ計画及び介護保険事業計画改定のための基礎調査報告書」(令和5年4月)

⑧幸福度

(高齢者の健康と生きがいに関する調査 問12)

現在の幸福度は、「5点」が21.2%で最も高く、次いで「8点」が21.1%、「7点」が16.3%となっており、平均は6.8点となっている。

令和4年度調査と比較すると、大きな差は見られない。

(介護保険サービス利用に関する調査 問15)

現在の幸福度は、「5点」が27.7%で最も高く、次いで「8点」が14.1%、「7点」が13.2%などとなっている。平均は、5.7点である。

令和4年度調査と比較すると、8点以上と回答した人が1.5ポイント減少している。

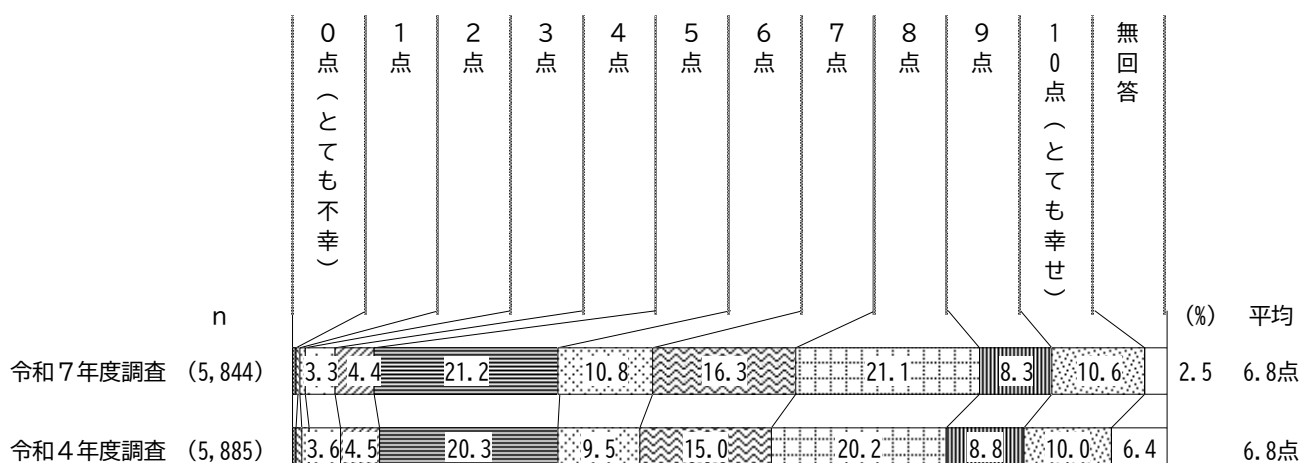
(介護保険制度に関する意識調査 問11)

現在の幸福度は、「8点」が19.7%で最も高くなっている。次いで「7点」が16.1%、「5点」が15.5%、「10点(とても幸せ)」が12.1%となっている。平均は6.5点となっている。

令和4年度調査と比較すると、「10点(とても幸せ)」が2.8ポイント増加しており、「8点」が3.7ポイント、「9点」が3.1ポイントそれぞれ減少している。平均は6.7点となっている。

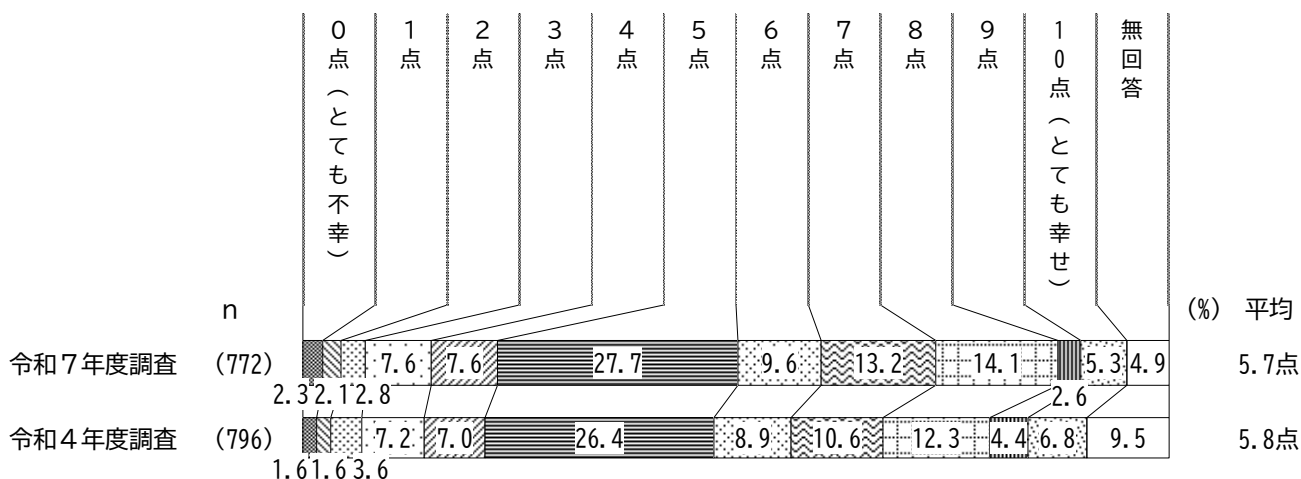
(高齢者の健康と生きがいに関する調査 問12)

【65歳以上】



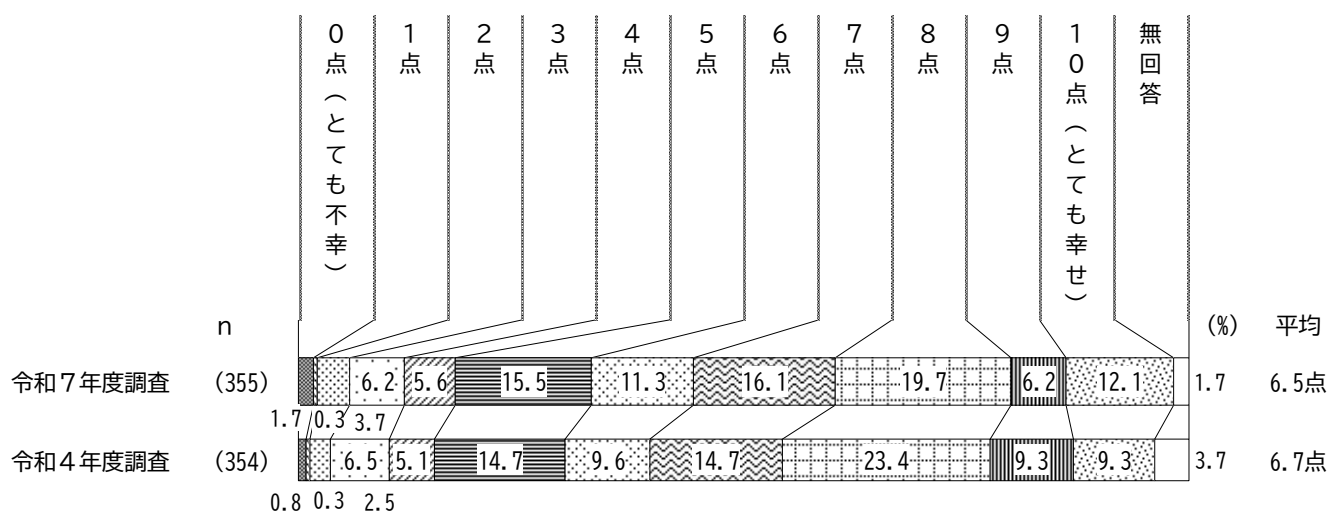
(介護保険サービス利用に関する調査 問15)

【介護サービス利用者】



(介護保険制度に関する意識調査 問11)

【50~64歳】



江戸川区熟年しあわせ計画及び介護保険事業計画
改定のための基礎調査報告書
＜ 概要版 ＞

令和8年（2026年）4月

編集・発行 江戸川区福祉部福祉推進課
〒132-8501 東京都江戸川区中央一丁目4番1号
電話 03（5662）1275

※概要版の電子版はこちらから➡

